

提言書



令和4年度

藤枝商工会議所青年部 提言委員会

藤枝商工会議所

会頭 山田 壽久 様

提 言 書

私たち藤枝商工会議所青年部は、
藤枝商工会議所親会に対し、
都市としてのブランド力を向上させる
人・企業・行政の交流拠点の開設を提言します。

目次

❖ 1. 目的	P 1
❖ 2. 背景	P 2
❖ 3. 現状	P 7
❖ 4. 交流拠点の事例	P 9
❖ 5. 藤枝市における可能性と効果	P 17
❖ 6. まとめ	P 19

1.目的

目指す都市像は、幸せな暮らしと活気溢れるビジネスが融合する

スマート・コンパクトシティ

「人・企業・行政」の交流拠点の開設は、静岡県中部地区におけるビジネス拠点としての藤枝市のブランド力を向上させるだけでなく、第6次藤枝市総合計画の基本理念である「“幸せになるまち”藤枝づくり」を実現し、「スマート・コンパクトシティ」の形成を促進します。

特に…市内外からのアクセスに利便性が高い藤枝駅周辺への交流拠点開設は、交流人口の増加、まちなかへの回遊機会の創出が見込まれるだけでなく、周辺地域の経済にも高い波及効果が期待できます。

さらに…この新拠点と既存拠点とを有機的に連携させることにより、持続可能なビジネス環境が構築され、様々な「イノベーション（新しい価値を創造）」を生み出す機会が創出されます。

また…駅周辺に多様な都市機能を集積させることで、「スマート・コンパクトシティ」としての魅力は向上し、昼間人口のみならず中心市街地への居住定着人口の増加も期待できます。

2. 背景

2-1 社会背景

近年、新型コロナウイルス感染症や世界情勢の変化等により、経済活動は停滞し、企業（中小・零細企業、個人事業主等）を取り巻く経営環境は、低迷の一途をたどっています。地域経済の衰退は、市民生活や地域全体の活気に暗い影を落とすことになりかねません。市民生活や地域に活気がなくなれば、さらに企業の経営環境も悪化するという負のスパイラルに陥ることとなります。

新型コロナウイルス感染症は、今もなお私たちを取り巻く社会に様々な困難をもたらしています。その一方で東京一極集中を見直す契機になった側面もありました。テレワークの普及・定着などは、その大きな変化の一つと言えます。働き方は今後ますます多様化していくものと思われます。

東京一極集中を見直す契機になったとはいえ、このような経済環境や社会環境の変化が著しい現在の状況は、安定した経営を目指す企業にとって困難な状況であることは間違いありません。この時代に企業が生き残り、市民や地域の活気を守り、さらに都市としての価値を高めていくためには、変化に対応するだけでなく、自らが変化を起こしていくことが必要不可欠であると考えます。

2-2 藤枝YEGの活動

藤枝商工会議所青年部（以下、藤枝YEG）では、令和4年9月に coworking space 『え〜らBASE』を会場に、 coworking space をテーマにした例会を行いました。

▼令和4年度9月例会の様子



コロナ禍で全国的にコワーキングスペースの存在が注目を集める中、藤枝市でも令和4年6月、新たに『藤枝駅前コワーキングスペース未来共創ラボ フジキチ』がオープンしました。

藤枝Y E Gでは、藤枝市で事業を営む青年経済人として、コワーキングスペースの活用例や運営の実情を学び、それぞれ事業への発展の可能性を探る目的で例会を企画いたしました。同例会を通して、このコワーキングスペースは、単なるワークスペースではなく、人々の交流や新しい価値（事業）を創造することを理念に運営されていることを学びました。



『藤枝駅前コワーキングスペース未来共創ラボ フジキチ』HPより

さらに我々事業者がどのように有効活用していくことができるかディスカッションを行い、同コワーキングスペースの理念が、具現化されていく可能性を感じ取ることができました。

また、このような狙いを持つ拠点の規模が大きくなればなるほど、交流の幅は広がり、新たな事業の創造につながるのではないかと感じました。また、まちづくりの観点からみても、より一層の活気を生み出す機運につながっていくのではないかと思います。

2-3 藤枝YEG平成28年度の提言

藤枝YEGでは、平成28年度に『MICE（マイス）でNICE（ナイス）なまちづくり』と題した提言を行いました<表①参照>。

<表①「平成28年度提言書概要」より>

『MICE（マイス）でNICE（ナイス）な、まちづくり』

地域ブランド力向上と高い経済効果があり、文化情報の発信地としてのまちづくりが提言された。

<MICEとは>

企業、団体等の会議（Meeting）、会議の際に発生する宿泊や企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、観光より多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

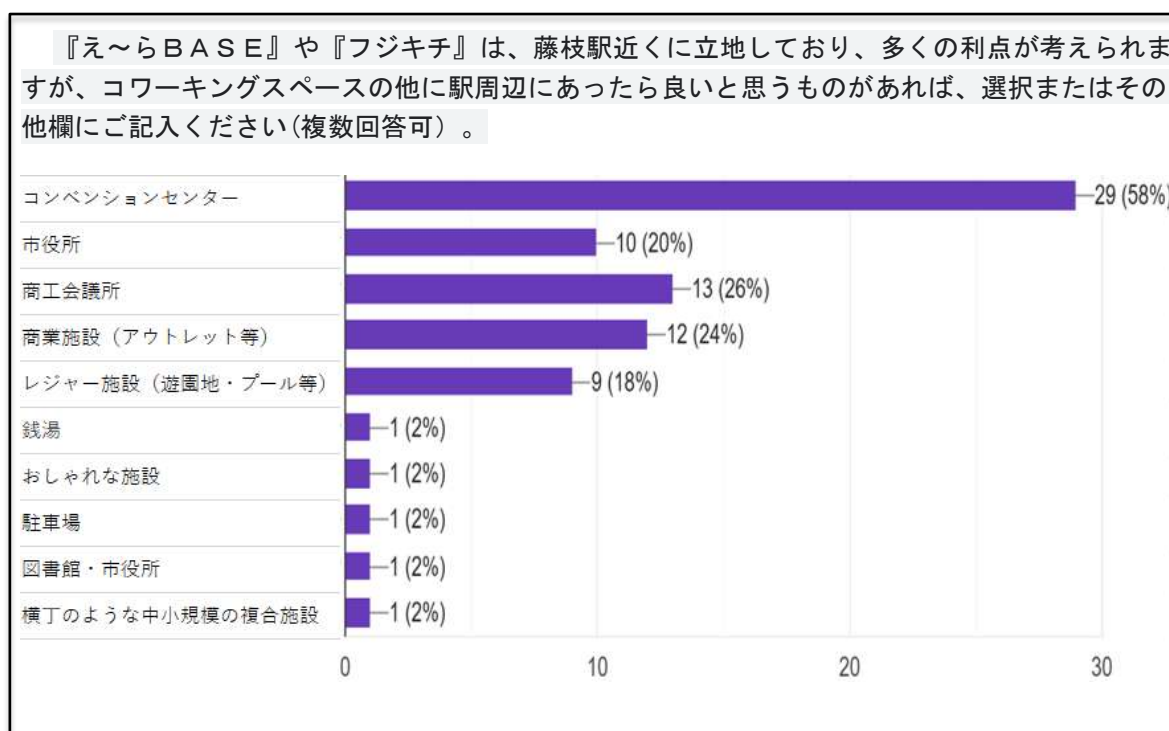
<提言内容の概略>

- ・ 志太地域の中心都市として藤枝市でMICEの推進と呼び込みを行う
- ・ 藤枝市に見本市やビジネス会議のできるコンベンション施設の導入と整備
- ・ 藤枝市のMICEによる市のブランド力向上による地域の活性化
- ・ 国際会議都市としての経済産業庁と観光庁の認定を目指した活動

平成28年に提言を行ったMICEでも、交流人口を増やし、新たな価値（事業）を創造し、高い経済波及効果も見込まれるという点において、規模に違いはありますが、同ワーキングスペースと狙いは共通しているものと考えます。

同提言の中では、MICEを開催できるコンベンションセンターの整備についても提言させていただきましたが、前述の例会の際に実施したアンケートにおいても藤枝駅近隣に望む施設として、コンベンションセンターを挙げる回答数が群を抜いていました<表②参照>。コンベンションセンターのような大規模施設については、費用面や用地確保の難しさ、近隣地域の類似施設との兼ね合い、さらにアフターコンベンションの魅力による費用対効果等、実現には多くの障壁があることは否めません。しかし、多くの事業者が藤枝市、特に藤枝駅周辺に大規模な交流拠点が整備されることを望んでいる事は間違いありません。

<表②令和4年9月例会アンケート>



3. 現 状

3-1 コロナ禍で減少する交流の場

コロナ禍ではZ o o m等を利用したオンライン会議が普及したことで、仕事をする場所の選択が広がりました。その一方で人・企業・行政が実際に会って交流する機会が、著しく減少することとなりました。オンライン会議は、便利なツールですが、画面の向こう側にいる人の表情や雰囲気を読み取るのが難しく、会話の細かなニュアンスが伝わらないなどの障壁があることは否めませんし、新しいことを創造する上では欠かすことのできない信頼関係の構築が難しくなっていると云わざるを得ません。

3-2 藤枝市の交流拠点

藤枝市には人々が集まる場所として思い浮かぶ拠点がいくつかあります。蓮華寺池公園、B i V i キャン、藤枝総合運動公園、文化センターなどの施設は憩いの場として、学びの場として、また、マルシェ等のイベント会場として、多くの藤枝市民に親しまれてきました。

しかしながら、それぞれの施設は個々の魅力をつなげるような交流拠点としての機能を果たしているとは言えません。どの施設も本来、交流拠点とは別の目的で作られているものであり、大きな会議やイベントを行うことを想定した設計ではないからです。

3-3 大規模イベント会場の選定

藤枝YEGでは、近年、県内外から多くの人が集まる大規模イベントを開催してきました。

(表③参照)

<表③ 藤枝YEGが近年主催した事業等>

開催年	大会名	会場	登録人数
平成28年度	第36回関東ブロック大会しずおか藤枝大会 式典	静岡県武道館	約2,700名
	第36回関東ブロック大会しずおか藤枝大会 大懇親会	藤枝市民体育館	
平成31年度	藤枝YEG30周年記念事業	小杉苑	
令和3年度	静岡県商工会議所青年部連合会主管事業	静岡県武道館	
令和5年度 (予定)	YEG全国サッカー大会静岡ふじえだ大会 大懇親会	静岡県武道館	2,000名 (予定)

これまで大規模イベントや会議を行う際には、県武道館や市民体育館を使用してまいりました。武道館も体育館も利用にあたっては、会場全体にブルーシートを敷くなどの制限が課されております。やむを得ない制限であることは理解できるものの、その制限をクリアするために設営費用が高みます。主催者としては制限の面からも予算の面からも苦慮しながら対応することとなりました。

4. 交流拠点の事例

全国には、様々な交流拠点が都市のブランド力向上に寄与している事例があります。

4-1 米子コンベンションセンタービックシップ



【場所】鳥取県米子市末広町294

- ・ JR 米子駅下車徒歩 5 分
- ・ 米子空港から車で 25 分
- ・ 米子自動車道米子中 IC から車で約 5 分
- ・ 駐車場 700 台



【概要・特徴】

- ・ 1998年に完成したコンベンションセンター
- ・ 最大の施設である多目的ホールは鳥取県最大の2004席を収容し、大物アーティストのコンサート、演劇などに対応できる。
- ・ 小ホールではピアノ演奏会などに対応
- ・ 国際会議場としても利用され、一般会議室も8室ある。
- ・ 鳥取県の行政機関も入居しており、2002年には第8回公共建築賞を受賞している。
- ・ 国際会議・大会に対応する同時通訳ブースを設置している。
- ・ 客席を床下に収納することで平土間のスペースとなる。
- ・ 運営は公益財団法人とっとりコンベンションビューロー

【施設使用例】



音楽フェス



展示会



懇親会

4-2 アミュプラザおおいた AMU PLAZA OITA



【場所】 大分県大分市要町1番1号

- ・大分駅中央区北口側
- ・駐車台数約 2000 台



【概要・特徴】

- ・2015年に全面開業した駅直結の複合商業施設
- ・府内中央口（北口）側の大分駅ビル1階～4階部分（大分駅ビルエリア）、高架下の豊後にわさき市場及び上野の森口（南口）側のJRおおいたシティ第2駐車場（旧大分駅南立体駐車場）にある商業施設の総称。
- ・大分駅と中心市街地をつなぐ接点にあり、流動量が多く、集客力に優れる。
- ・インパクトがある大屋根の下でのイベントは、注目を集めると共に、雨天時でも開催可能。
- ・広場は十分な広さがあり、自由なレイアウトが可能

【施設使用例】

屋外イベント

「一番搾り 大分に乾杯」発売記念 乾杯しちよくれ！ OITA GARDEN



- ・「一番搾り大分に乾杯」の発売記念イベントを開催。

桜の装飾によるお花見のような演出の中で、お客様にビールと大分の特産品などを楽しんでいただき大盛況となった。

4-3 エキスポシティ



【場所】

大阪府吹田市山田丘 1-1

大阪万博記念公園駅南側



【特徴・概要】

- ・国内最大級の大型複合施設。
- ・約 300 店舗ある「ららぽーと EXPOCITY」と各大型エンターテインメント施設が一堂に会す、エンターテインメントとショッピングを融合した大型複合施設。

- ・万博記念公園内の施設には、海遊館が初プロデュースするミュージアム「ニフレル」、日本一高い123メートルの大観覧車「OSAKA WHEEL」など、体験型施設が集まっているのが特徴。
- ・地域連携として、吹田市、大阪大学、大阪芸術大学、ガンバ大阪など、地域パートナーと手を取り合い新たな価値の創出と提供を目指す。



※万博公園駅前アリーナ計画

大阪モノレール万博記念公園駅南側の府が所有する土地を民間事業者に貸し出し、コンサートや国際的なスポーツ大会を開催できる多目的アリーナを民間業者に整備・運営してもらう計画がある。固定座席15,000以上で関西最大規模となる計画。

4-4 IMAGIN Kanazawa 2030

【概要】

石川県金沢市での取組

- ・ 持続可能な金沢をパートナーシップで実

現するプロジェクト

- ・ SDGsに関するリアルとバーチャルの

コミュニケーションの場で、コレクティ

ブインパクトを生み出すさまざまな主体

の連携を促進する。



【実施例】

- ・ スポーツとSDGsをテーマにSDGsカフェを開催し、幅広い年代のサッカーファンが興味を持ち成功。
- ・ SDGsとなにかをかけ合わせることで、片方だけをテーマとしていては生まれない相乗効果を得ることができる。

4-5 &green

【概要】

埼玉県北本市での取組

- ・北本市の暮らしの魅力を磨き、伝えていくことで、市内外の多くの人に北本市に対して愛着を持ってもらう。
- ・緑、自然、人、地産地消をコンセプトにマルシェやワークショップを開催。地域の価値を市民と考え、まちの魅力を発信する場を作る。

【実施例】

- ・&green fes project

北本市市制50周年を記念し、北本市シティプロモーションコンセプト

「&green -豊かな緑に囲まれた、ゆったりとした街の中で、あなたらしい暮らしを。」

を未来につなげるマーケット・音楽イベント「みどりとまつり - &green - fes (アンドグリーンフェス)」を開催。



5. 藤枝市における可能性と効果

5-1 藤枝市における可能性

藤枝市にコンベンションセンターのような大規模交流拠点を導入するには、多くのハードルがありますが、私たちが実現の可能性があり、既存施設と連携することで魅力的なものとなりうる交流拠点として考える一例を以下に提案します。

- ・ 藤枝駅南口広場に稼働式の屋根を設置

⇒天候に左右されにくくなり、イベント等の設営のしやすさが向上する。

- ・ 駅周辺の駐車場のイベント会場化

⇒普段は駐車場として機能しているが、必要に応じてイベント会場として利用できれば、イベント等の内容の幅が広がる。

- ・ 商業施設等でのイベント設営の一層の利便性向上

⇒例えば、B i V i 1階のトライアルスペース『k o k o k a r a』の規模拡大。

- ・ 文化センターの用途拡大

⇒会議や講演会としての利用が多いが、飲食を含むマルシェ等を設営しやすく整備する。

など…

5-2 交流拠点の開設による効果

5-2-1 ビジネス・イノベーションの機会の創造

交流拠点が開設され、様々な会議やイベントが開催されれば、市内外から人が集まる契機となります。交流人口が増加すれば、新しいビジネスやイノベーションの機会を呼び込むことにつながります。交流拠点の規模が大規模になり、M I C E開催が可能となれば、日本中、あるいは世界中から企業や団体、学会等の関係者が藤枝市に集うこととなります。国内外の様々なエキスパートが藤枝市関係者とネットワークを構築にすることにより、その効果は図り知れないほど大きなものとなります。

5-2-2 地域への経済効果

交流拠点の開設により、主催者、参加者、出展者及び来場者等が藤枝を訪れ、交流人口が増加すれば、周辺地域での消費支出やイベント等の開催に係る事業支出が見込まれ、経済波及効果を生み出します。さらに、交流拠点での会議やイベント等が宿泊を伴うような規模に拡大され、滞在期間が長期になるほど、宿泊、飲食、観光等の経済・消費活動の裾野はより広がります。

5-2-3 藤枝市のブランド力向上

交流拠点が開設され、ビジネス・イノベーションの機会の創造や地域への経済効果が継続的に生まれるようになり、藤枝市が企業にとって経営環境の良いまちとなれば、自然と企業が集まり、雇用創出にもつながります。その先には、交流人口のみならず、居住定着人口の増加も期待できます。このような一連の流れが循環していくことは、藤枝市のブランド力の向上に寄与します。

6. まとめ

私たち藤枝商工会議所青年部は、経済団体として藤枝市及び自企業の発展を目指して活動しています。藤枝市が活気づけば、地元企業の経営環境は良くなりますし、地元企業に勢いがあれば、藤枝市の経済活性化や雇用創出に繋がります。藤枝市が繁栄すれば、市民の住みやすさや満足度の向上に寄与します。このような相乗効果を最大化するには、人・地元企業・行政の交流を促す拠点が必要不可欠と考え、本提言に至りました。

本提言にある「交流拠点」は、コワーキングスペースやマルシェなどを行うスペースから、コンベンションセンターまで、その規模や機能は多岐にわたります。コンベンションセンターのような大規模施設ができることに夢を膨らませる一方で、その実現や実現した先に待ち受ける様々な課題があることは私たちにも容易に想像が付きまします。

「交流拠点」は、規模や機能など様々なものがありますが、交流による新しい事業・価値の創出、交流人口の増加に伴う経済波及効果が期待される点において、共通の目的を持っています。そのような目的を持つ拠点が、既存の施設と有機的に繋がっていくことで、それぞれの効果を相乗的に高めることになるはずです。

私たちは、藤枝市を愛する経済団体として、より有効な「交流拠点」が開設されるように、また、それらの効果が最大化されるように活動していきたいと考えています。